

第 2 期地域まちづくり計画（案）にかかる意見募集の実施結果について

令和 2 年 2 月 4 日
 渋川学区まちづくり協議会

渋川学区の目指す将来像を定め、その将来像の実現のために解決しなければならない課題を浮き彫りにし、その課題に向けた取組みを行うため、令和 2 年度から令和 6 年度までの向こう 5 年間の新規事業計画等を定めた「第 2 期地域まちづくり計画（案）」について、令和 2 年 1 月 14 日から 1 月 27 日までの間、意見募集を実施しました。このたび、お寄せいただきましたご意見の概要とご意見に対する当協議会の考え方をまとめましたので、公表いたします。
 貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

- 1. 実施期間 令和 2 年 1 月 14 日（火）から 1 月 27 日（月）まで
- 2. 提出者数 9 人
- 3. 意見総数 36 件（9 人×4）
- 4. 意見の概要

重点課題	意見の要旨	当協議会の考え方
子育て支援の不足	①既に子育てを終えられている（経験のある）方を募集し、相談役になってもらい、特に集合住宅のオープンスペースを利用して、各種イベントを催す。	当協議会の子ども育成部会が担当し、令和 2 年度から意見の要旨を踏まえて対応検討します。
	②「場」を作っても、行けない、行く時間がない、行く勇気がない。主任児童委員の方に出会ったことがない。日時を約束して訪問か来所で直接話を聞いていただきたい。芝生のある公園がない。公園まで行くのに道中が車通りが多く、危ないと感じる。公園に遊びのリーダーが定期的にいてもらえると親が集まるきっかけになったり、異年齢交流ができると思う。 ※保育園と幼稚園のどちらを利用してるかによって親の悩みが違うと思う。	
	③町全体で声の掛け合いをモットーにすれば自然に子育ての支援ができると思う。月に 1 回でも 2 回でも子育て中のおかあさんの集まり場所があると良い。（マンションの畳部屋など）	
	④車を持っていない、運転できない家族にとって、バスの本数が少ないため、移動できる場所が限られている。ベビーカーがあるとバスに乗りにくい。中学校卒業まで医療費を無料にしてほしい。学区ごとに無料相談（子育てについて）があれば良いと思う。	
	⑤各町内会ごとに、民生児童委員、子育てが終えた人たちなど中心にサロン等を開いて、相談できる雰囲気（場）づくりが必要ではないでしょうか。	
	⑥町内会館内に子育て支援プラザを設け、担当をおいて、月 2 回程、子どもの面倒と親の愚痴を聞く。	
	⑦子育て支援者リストを作成する。（各町内子ども会と連携）及びネットワークを創設する。また、子育て支援相談と活動の実施（親子サロン、子どもセミナー、新春書初め大会）	
	⑧いいと思います。住民アンケートをとる。	
	⑨市（民生児童委員等）の組織、社協、まち協の取組みの役割分担を整理して取組む必要がある。（セミナー等の開催回数、場所、人材等の検討必要）	
健康・福祉への不安	①集会所に運動の測定器（ルームランナー、WiiFit など）を設置し、定期的に足を運んでもらい、活動内容に応じて、スタンプを押し、一定数集まれば景品と交換。外に出られない人には自宅を訪問する。	当協議会の健康福祉部会が担当し、令和 3 年度から意見の要旨を踏まえて対応検討します。
	②65 歳以上をひとくくりに高齢者といっても、親子ほど違う。引きこもりがちな高齢者のゴミ出しを小学生が日々支援できれば、子どもの行事を通して、引きこもり予防ができるではないでしょうか。交通手段も課題になると思いますが、近いようで自転車に乗れないと遠い子どもと一緒に思い切って、歩行器や車イスで会場まで行くのも学びの機会になるのではないのでしょうか。	

	③ローレルコートでは、毎週 1 回いきいき体操と月 1 回のふれあいの会があり、そのあとのおしゃべり会でいろいろ相談もでき楽しくしています。もちつき大会には老人から赤ちゃんまで、しぶはなちゃんも来てくれてお手伝い出来る人を募集してお世話いただいていますので感謝しています。健康福祉は市がしてくれているので充分、又シルバーセンターを利用させてもらっている。 ④道が段差多い。お年寄り向けのイベント（運動、清掃など）を増やした方が、心に余裕がある人が増えると思う。 ⑤当学区では 1 つにまとめて敬老会を開いておられますが、遠くに行けない人たちがいます。各町内会ごとに開いてはどうか。身近な町内、近所、付き合いできるようにすればどうか。各町内会毎に、健康推進員、民生児童委員、看護師等も同席する。 ⑥町内会館内にシルバーサロンを設け、担当をおいて、月 2 回程、体操、パソコン、マージャン、その他を行う。 ⑦健康相談サポート体制の確立。（薬局との連携） 食生活健康づくり教室の実施（コープとに連携） 健康フェア（まつり）開催（3 世代交流） ⑧いいと思います。住民アンケートをとる。 ⑨市（民生児童委員等）の組織、社協、まち協の取組みの役割分担を整理して重複した取組みをなくし幅広く対応体制を作る。 （市・まち協は近隣町内会で行う事業に対して支援、人材育成を担当する）	
防災・減災 対策	①年代・性別・地域別に中心となる方を任命し（立候補してもらう）、地域に応じた防災体制を整えるための研修を実施する。 ②人口構成が分からないので、どの世代を中心となる人材として育成する必要があるが、想像しにくいです。成年、青少年、小学生？ ③防災では、オール電化がよいと思うのですが、温暖化問題で難しいです。減災は個人が十分気をつけることが一番。 たばこのポイ捨てをやめましょう。 ④かまどベンチ、屋根のある公園を増やす。A E D の設置。 ⑤各町内会長、各委員などを中心に、また防災士、消防隊員などを中心に徹底して訓練をしてはどうか。昨年の防災訓練で気づいたことは、スタッフ・各委員・世話方などの訓練だけではないでしょうか。参加者は見ているだけでした。何をするのか明確にすることも大切ではないでしょうか。（避難所受入れ、名簿作成、配置、ボランティアの受入れなど） ⑥町内会館内に対策本部を設ける。 ・新耐震構造になっているか？・自分の家に一番近い避難所は？等分かっているか学習する。 ⑦災害連絡網の作成（伝言ダイヤル設定、マップ作製）・渋川防災ハンドブックの作成（FM 草津と連携）・防災セミナーの定期開催（3 世代で実施出来る体験型教室） ⑧いいと思います。 防災訓練として、防災バーベキューとか防災キャンプなど、防災子ども向けのクイズ、防災カードゲーム、防災工作ダービーなど、子どもが喜びそうで人が集まりやすい楽しいイベントの企画スタッフを公募し実施してもらおう。 ⑨消防団を中心に町内自主防災組織と融合した体制を作る。町内の世帯構成、特徴を考慮して近隣 2 ～ 3 町内で合同の体制を作る。マンションと戸建て世帯では対応が異なる。消防団員と町内自主防災の中心人材との兼務を避けて、交流を図る。	当協議会で防災計画策定委員会を発足し、令和 2 年度から意見の要旨を踏まえて対応検討し、令和 3 年度からの防災訓練に活用して参ります
地域コミュニティ の危機	①渋川学区民にアンケートを実施。まち協事業の継続可否を選定し、スリム化を図る。そのうえで、集中的に予算措置し、これまでの事業のグレードアップを図る。 ②渋川小横の団地はどのような位置づけになっているのでしょうか。町内ごとの高齢化率はどうなっているのでしょうか？	当協議会で事業改革委員会を発足し、令和 2 年度から意見の要旨を踏まえて対応検討します。

	③このマンションにきて町内会に入れていただき数年ですが、コミュニティはとても良いと思う。地域全体としては、神社の行事も自由に参加できるがお寺の行事はないように思う。市の行事の宿場まつりや街あかりの渋川通りは少し淋しいです。伊砂砂神社の花踊りはたくさん参加しているので、市ももっと宣伝されたらよいと思う。	
	④回覧板で内容が良く分かるので良いと思うが、行ける人が限られている。	
	⑤以前は、町会長と評議員２人でほとんどやっていました。各町内会長を通じて、ある程度の資格・専門職・得意などのジャンルがあると思いますので、是非利用願います。まち協中心ではなく、各町内、町民からの要望を受け入れる方向に進んではどうでしょうか。行事ありきではなく、何を望んでいるのか、調べることも大事だと思います。目安箱もう一つ。	
	⑥町内会館内に対策本部を設ける。 ・過去の町内会会則を見直し、より魅力あるものにする。 ・若い世帯にも参画してもらい、役員等にはならないようにする。 ・町内会の運動会へ小学生が出た場合、その日が日曜日だったら代休を与えたい。	
	⑦新旧３世代のふれあい行事の開催（交通安全体験など）・スポーツ（野球、サッカー、バレー他）を通じてふれあえる行事（プロ・有名人を招待）・自主教室の発表会の定期開催（住民参加）	
	⑧多くの人に受け入れられる事業の見直しには、多様な人がかかわることが必須だと思います。いきなり役員を充てるのではなく、事業にかかわる人を増やして、協議会とのゆるやかな関係づくりから人材確保を始めてはいかがでしょうか。 ふれあいまつり、運動会などに参加している人にアンケートをとり、好きなことや趣味を聞く。（アンケートに答えた方には粗品をプレゼントする）事業提案された方に事業を行ってもらう。役員はサポートに徹する。	
	⑨運動会で選手の出場条件制約があり、対象者が減少しているため選手選考に困る。自主的に参加できる魅力ある事業を是非やってほしい。	